

# 一般社団法人名古屋小児がん基金 (NPCF)

## 2021 年度事業報告書

一般社団法人名古屋小児がん基金 (NPCF) は、小児がん患者の治療成績や治療環境の向上を図ることにより、患者およびその家族の福利に資するとともに、広く小児がん研究や診療の向上を図ることが目的である。この目的を達成するために関連する諸団体と連携して、下記の事業を実施した。

### 事業計画 (1) 小児がん患者における新規治療法の開発や遺伝子診断への支援

全国の15小児がん治療拠点病院の中でもトップの実績と研究結果をもつ名古屋大学小児科でのCAR-T療法の開発を支援した。臨床試験の結果も順調で、安価な名大方式のCAR-T細胞製造の特許が認められた。6年前当基金設立時の目標の一つが達成できた。

次世代シーケンサーを用いたゲノム解析の経費(保険適応されない)の支援を続け、患者ご家族の負担を軽減することができた。この事業は今後も継続することが求められている。

これら最新医療事情を広く市民に伝えるために、HPやYouTubeで、公表した。

また年に2回ニュースレターを発行し、当基金へ寄付をしてくださる支援者の方々に活動報告をした。

### 事業計画 (2) 患者・患者家族への経済的支援

保険適応がない薬剤を必要とする患者さんへの薬剤費用支援をした。

### 事業計画 (3) アジアの発展途上国における小児がんに関わる医療従事者や患者への支援

タイでは名古屋大学でCAR-T細胞の培養技術を習得した若手研究者による臨床研究が、悪性リンパ腫の患者さんを対象にすでに始まっている。

ベトナム フエ中央病院から医師・検査技師の小児造血幹細胞移植研修の支援を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響でできなかった。いずれ落ち着いたら、受け入れ支援をする予定である。白血病の診断に必要な遺伝子検査キットを贈り、すでに8人の小児がん患児が移植を受けている。

また、ベトナムの病院と連携し、移植を必要とする子どもの姉（名古屋在住）の検査費用を緊急支援することもできた。

## **基盤事業**

**(1) 小児がん基金の財政基盤を確立するために、広報活動に力をいれた。**

- ・チラシ配布（イベントや他団体のニュースレターへの同封などを通じて）
- ・ニュースレター配布（約9000通）
- ・2020年3月からイオンの「幸せの黄色いレシートキャンペーン」に登録。
- ・ライオンズクラブ・名古屋キワニスクラブ・樋口宗孝がん研究基金・公益財団法人毎日新聞大阪社会事業団・一般財団法人愛知健康増進財団から助成金をいただいた。

**(2) HPの充実を図り、最新の小児がん治療法の動きを伝えた。**

- ・毎月1～3回医療情報を発信
- ・メールマガジン毎月発行（登録者 97人→104人）

- ・ 5周年記念イベントが、新型コロナウイルス感染症の影響で、中止になったので、YouTubeへ動画をアップした。



### (3) 医療講演会・募金活動・イベントなどを通じて小児がんの現状を伝えた。

- ・ 講演会や寄付金贈呈式（医師会・保険医協会・ライオンズクラブ・キワニスクラブなど）
- ・ イオンスタイル豊田での募金活動（ライオンズクラブ）
- ・ 新聞記事、WEB記事、ラジオ出演
- ・ 東京でチャリティコンサートをされていたピアニストによるチャリティコンサートの企画も進めている。